

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年6月1日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0895600062		
法人名	医療法人 正信会		
事業所名	小規模多機能型居宅介護 たまり	ユニット名	
所在地	311-3434 茨城県小美玉市栗又四ケ2288-7		
自己評価作成日	平成26年11月20日	評価結果 市町村受理日	平成27年6月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_021_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0895600062-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=021">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_021_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0895600062-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=021</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年1月14日	評価機関 決 済 日	平成27年6月1日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所独自の理念に掲げられている「いつも元気で笑顔がいっぱい」を目標に、明るく健康で楽しく過ごしていけるよう健康管理とレクリエーションに力を入れている。また、介護者の力になれるよう常に希望に沿った利用法を提供し、ディサービスであっても、朝食と夕食を提供しているので、仕事を持つ家族に喜ばれている。月に1回は、季節を感じてもらえる行事を行い、四季折々の食事を工夫して楽しんでいただけるよう努力している。また、利用者から希望・要望を組み入れ、外出支援にも力を入れている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

一人ひとりの望む暮らしを実現させるため、サービスを利用者に当てはめるのではなく、訪問中心のサービスの提供をするなど、利用者や家族等の意向にそいながら支援をしている。  
昼食時間のみ通所介護を希望している場合にも個別に送迎をしているほか、家族の勤務時間の都合に合わせて利用時間の融通性を図り、朝食や夕食を提供している。  
一人暮らしの利用者には、帰りに夕食の手作り弁当を持たせるなど、一人ひとりの状態や環境に合わせたサービスの提供をしている。  
近隣住民との交流として優れている点は、年2回ピザの焼き釜を備えた住宅の庭を借り、利用者と地域住民でピザ作りを通じて、交流ができるように支援をしている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体としては「富める人、貧しき人、すべての人に、心のこもった医療福祉を」を社訓に事業運営をしている。たまりでは、独自の理念を作りホールに掲示し常に職員全員でその理念を共有し実践につなげている。	「住み慣れた地域の中で」との文言を含む、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を掲げている。 職員は理念をいつでも確認ができるように、名札の裏に記載し携行しているほか、食堂兼居間に掲示して共有を図り、利用者と地域住民が日常的に交流ができるよう支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り等への参加、近所の方との交流を積極的に行ったり、会合等にも出席して利用者が地域とのつながりが継続できるように事業所自体が交流していくよう努めている。	散歩の時間を設け、地域住民と挨拶を交わしたり、地域住民から野菜のお裾分けを頂くなど、日常的に交流をしている。 年1回市社会福祉協議会が開催する福祉まつりに、利用者と職員が参加して事業所の紹介をするほか、利用者が制作した折り紙やちぎり絵作品を出展している。 年6回事業所が開催する季節の行事には、地域の日本舞踊やフラダンス、ハーモニカ、腹話術などのボランティアを受け入れ、利用者は発表を楽しく見学して交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が、積極的に勉強会や、研修会等に参加し、知識を高めているところである。今後この実績をもとに地域の人々に理解及び支援・協力を呼びかけて行くよう努めていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の生活の様子や、行事などの報告、情報交換などを行うと同時に、意見や要望などを戴き、今後のサービス向上に生かしている。	家族等の代表や地域住民、民生委員、市担当者、併設グループホームの職員代表等が参加する運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、会議録を作成している。 日頃の事業所の現状を理解してもらえるように努めるほか、明らかになった課題について、参加者が協力者となるよう、サービスの改善に向けた意見交換をしている。 参加者から出された意見をもとに、避難訓練に地域住民の参加が得られるほか、外出行事に家族等の付き添いが実現するなど、サービスの向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者について日頃から、不明な点や相談したいことなど、気軽に相談ができ、助言をいただいている。 「困難事例」などは包括支援センターの担当者と一緒に対応を検討し実践につなげている。	管理者は市の地域包括支援センターへ出向き、連絡や相談をしているほか、困難事例の紹介にも応じているため、いつでも協力し合える関係を築いている。 管理者は年4回市が開催する研修会等に参加し、研修内容は申し送り時に報告するとともに、職員の資質向上と利用者の円滑なサービス利用につなげている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアの実践に取り組んでいる。 職員各自が正しく理解できるようミーティング時などに繰り返し学習している。	身体拘束廃止に向けたマニュアルを整備し、職員には禁止対象となる11項目の具体的な行為を文書で配布し、正しく理解ができるように話し合いをしている。 現在身体拘束対象者はいないが、やむを得ず身体拘束が必要となった場合にそなえて家族等に説明し、同意を得るための書面と「経過観察記録」、「再検討記録」の整備をしている。 玄関や居室は施錠をせず、職員は利用者が自由に活動できるように、見守りや付き添いの支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に虐待の防止の意識を高め、日々の介護の中で見過ごすことのないよう注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の人権を擁護することの重要性を学んでいる。 利用者個々の必要性を話し合い、関係者及び地域包括の方等に相談し、活用できるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に、契約書、重要事項説明書で、十分な説明を行い、理解納得していただけるよう配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から意見、要望を気軽にいただけるよう手紙を出したり、玄関に意見箱を設置している。意見、要望をいただいた時には、速やかに、職員皆で話し合い、検討し対応している。また、苦情相談受付窓口を重要事項説明書に明記している。	無記名の家族アンケートを実施し、集計結果を家族等に報告するとともに、全職員で課題を検討してレクリエーションを増やすなど、改善に向けて取り組んでいる。 利用者からの要望は、その都度日々のケアの中で把握しているほか、家族等からの意見や要望は送迎時などに聞き取るよう努め、「海が見たい」との要望を受けて外出行事に取り入れるなど、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で職員の意見や提案などを聞く機会を設け、運営に反映させている。	管理者は毎日の朝礼時に、職員の意見や要望を聞き取っているほか、個別の相談や悩み事はその都度時間を作り、話を聞く機会を設けている。 職員からの提案により「乾燥肌予防のため、入浴後に保湿クリームを塗る」などの利用者へのサービス改善が図られている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体の病院で、月1回の定例会議を実施し、職員独自の要望や意見などを話し合い、職員一人一人が向上心を持って働けるよう配慮、対応に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の採用時1か月の見習い期間を設け施設内の業務を指導し、採用の決定をしている。日常的に学びながら経験を積み、各研修に積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域密着型介護サービス事業所協議会に加入し、その協議会の研修会、親睦会に積極的に参加し、同業者との交流を深め知識向上に努めている。また、施設内でも研修や勉強会を実施し、事例検討を通じて、介護技術、サービスの向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用相談時より、信頼関係を築いていけるよう努力している。本人及び家族と面会を行い、不安や心配を取り除くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と十分な話し合いを行い、家族の思いをよく聴き理解し、良い関係が築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所のサービス調整だけでなく、包括的な支援の確立を心掛けている。関連施設との情報交換などを行い「その時」の対応に備えられるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	安心で安全に楽しく過ごすことができるよう、できる作業は一緒に行い、協力をいただきながらまた、教えて頂きながら良い関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、近況報告し、安心していただけるよう配慮している。本人と家族の絆を大切にしながら、私たちも一緒に本人を支えていくよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が、ずっと続くよう、地域の方々に協力を得ながら、支援をしていくよう努めている。	職員は入居時のアセスメントや日々の関わりの中で、利用者の馴染みの人や場所などの把握に努めている。 これまでの自宅での生活を維持している利用者が多く、家族等の協力のもと、近隣住民との交流や馴染みの店での買い物など、昔馴染みの人や場との関係を継続できるように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人が互いに関わり合い、支え合うような環境を作り支援していくよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて、相談や支援に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者との日常のかかわりの中で、コミュニケーションをとりながら、本人の希望や意向を把握できるように努めている。常に利用者の立場に立って検討している。	職員は利用者の望む暮らしを本人や家族等から聞き取るほか、表情やしぐさから得られた情報を介護記録に残し、朝礼時に職員間で共有している。 管理者は利用者の「宿泊しないで自宅で過ごしたい」などの思いを汲み取り、家族や市担当者と情報を共有し、利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時には、十分なアセスメントを行い、これまでの生活環境や、馴染みの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のリズムを理解し、その人に合った過ごし方で対応している。心身の状態や様子などを、記録し、申し送りノートを利用して、職員全員で現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の必要に応じてサービス担当者会議やカンファレンスを行い、介護計画を作成している。本人の変化時も話し合いをもとに現状に即した介護計画を作成している。	介護支援専門員は利用者及び家族等の意向にそった、生活全体を網羅した介護計画書を職員と話し合いながら作成しているが、居宅介護計画書に基づいた、施設で過ごすための個別計画書を作成するまでには至っていない。 管理者は月1回自宅において、利用者や家族等と一緒にモニタリングを実施して記録に残すほか、現状に即した計画書に変更をしている。	介護支援専門員が作成した居宅介護計画書に基づき、利用者が事業所を利用中に提供するサービスの内容を網羅した個別の援助計画書を作成することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録用紙に生活の様子や体調の変化などを記録している。介護日誌、申し送りノートで情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用の変更についても、当日の連絡あっても可能な限り、受け付けている。その時々にもニーズに対応し柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人の暮らしを支えている地域資源を把握していくよう努めている。困りごとや問題がある場合は、市、福祉課、包括に相談している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院にて、定期的な受診を行っており、24時間体制あるため、医療体制は充実している。他病院への通院も希望に応じて送迎介助の支援をしている。	月1回協力医療機関への受診を支援し、受診結果は家族等へ報告するとともに、申し送りノートを利用して職員間で情報を共有している。それ以外の受診については、家族の協力を得て適切な医療が受けられるように配慮をしているほか、必要に応じて訪問歯科診療を事業所において受けられるように支援をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師及び、関連施設の看護師と情報を共有し、健康管理やケアについて、話し合い相談している。毎朝引継ぎで状態を把握し、個々の利用者に適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院に際し、安心して治療ができ、早期退院となれるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。日頃より病院関係者との関係づくりを行うよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、母体病院と連携しているが、看取り介護に関しては、行わない方針であり、契約時に、利用者家族の署名をいただいている。なお、利用者の重度化に備えたマニュアルで、職員研修している。	運営母体の病院と24時間の連携対応が可能であるとともに、重度化や終末期には法人内の適切な施設へ紹介できる体制であるため、看取り介護は行わない方針であることを利用者と家族等に説明をして同意を得ている。 重度化した場合の対応マニュアルを整備し、年1回の職員勉強会を開催しているが、記録を残すまでには至っていない。	毎朝と昼食後に職員が集まり、話し合いや勉強会を開催しているため、年間研修計画書を作成するなどして勉強会の開催を管理するとともに、記録に残すことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを職員全員が、学習し、応急手当、初期対応の訓練を定期的を実施して、実践力を身に付けるよう努める。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者が避難できる方法を職員全員が、身につけ、地域との協力体制を築いていくよう努める。 避難訓練を年2回実施している。また、災害に備えて食糧や飲料水等を備蓄している。	近隣住民参加のもと、年2回避難訓練を実施しているが、夜間を想定した訓練を実施するまでには至っていない。 職員は実施記録を作成しているが、次回開催に向けた課題を話し合うまでには至っていない。 管理者は備蓄リストを作成するとともに、災害に備え米20日分、飲料水3日分程度のほか、生活用水として期限切れのペットボトルの水、缶詰各種、乾麺等を備蓄している。	全職員が昼夜を問わず避難できる方法を身につけるために、夜間想定訓練実施が望まれるほか、訓練実施後は職員間で反省会等を開催し、次回に向けて改善が図られる避難計画を期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の立場に立ち、人格を尊重し、プライドやプライバシーを損なわない言葉かけや対応をしている。	職員は利用者の人格を尊重した言葉かけに配慮をしているほか、「プライバシー保護」に関するマニュアルを整備するとともに、勉強会を実施して全職員が適切なケアの実践ができるように努めている。 個人情報に関する書類は事務室の鍵のかかる書棚に保管し、適切に管理をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人が発する言葉や表現を注意深く観察し、本人の思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や業務を優先するのではなく、一人一人のペースを大切にし、その日の過ごし方などの希望にそって、その人らしい1日が過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の個性や希望に合わせて、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人一人の好みなどを知り、毎食職員が、料理に力を入れている。食事中は楽しい雰囲気の中、会話をしながら、ゆっくり召し上がっていただいている。またテーブル拭きや後片づけ等、利用者のできることは、積極的に職員と一緒にしている。	運営母体の栄養士が立てた献立の食材を利用しているが、職員は近隣や家族等から差し入れられる野菜や果物を採り入れながら、一人ひとりの好みや咀嚼機能に応じた調理を工夫している。 利用者はテーブル拭きや野菜の下ごしらえ等できることに取り組みながら、職員と同じテーブルで会話を楽しみながら食事をしているほか、年間を通じて行事食には寿司やレストランでの外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通じて、必要な食事や水分がとられるよう、本人の体調や様子を見ながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い習慣化している。一人一人の口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人一人の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援している。	職員は排泄チェック表を活用して利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりのタイミングを図りながら、トイレ誘導をするとともに、失禁の予防に努めている。 トイレは車いすや歩行器でも利用し易い広さがあるほか、手摺を設置しているので、ひとりでも安全に排泄ができるように工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一応入浴の時間を決めてはいるが、一人一人の希望に合わせ、入浴を楽しんでいただけるように配慮している。 また、季節感を取り入れたり工夫している。	通いの利用者はその都度、宿泊の利用者は週2回午前中に入浴ができるように支援をしているほか、必要に応じて日曜日を除く毎日、午前中の時間帯に入浴ができる体制を取っている。 柚子湯で季節感を採り入れたり、利用者が足浴をしながら体を洗うなど、入浴が楽しみとなるように工夫をしている。 脱衣所は床暖房を設置し、浴室との温度差を軽減する配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や体調状況に応じて、休息したいいたり、安心してリラックスし寝ていただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が使用している薬の目的、副作用、用法、用量について、理解を深め、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみや張り合いのある暮らしができるよう、また、自分らしく過ごすことができるよう、役割、嗜好品、楽しみ事、気分転換等の支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や外食等、本人の希望にそって、戸外に出かける支援に努めている。普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	自宅周辺で過ごす時間や近隣住民との交流を妨げないように、本人の意向にそいながら家族等と話し合い、利用回数を決めている。 送迎時間を利用して気分転換や買い物支援をしているほか、事業所では春と秋の時期には、週2回程度散歩の時間を設けている。 年間行事計画書を作成し、いちご狩りや紅葉狩り、外食、海へのドライブ、市で運営する温泉施設、地域の文化祭等に利用者が出かけられるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力に応じて、お金を所持したり使えるよう支援している。また、利用者の金銭を預かる場合は、家族と相談し合意を得て、事務所で保管し預かり証を発行している。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間（玄関、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、心地よく過ごせるように清潔に保ち、刺激がないよう配慮している。生活感や季節感を取り入れて、居心地良く過ごしていただけるよう工夫している。	居間兼食堂には利用者が書いた1年の抱負やちぎり絵作品、絵画、季節の草花などを飾り付け、明るい雰囲気となっているほか和室が設けられており、利用者が食後横になって休むことができるように工夫をしている。 居室につながる廊下には、採光のための天窓が設けられているため、明るい空間となっているほか、壁面には1年間に開催した行事の写真が掲示され、利用者の日頃の様子を伺うことができる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるよう居場所の工夫をしている。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	休憩、泊まりの部屋はできるだけ同一の利用者が使用できるよう配慮し、使い慣れたものや好みのもをを活かし、安心して過ごすことができるよう工夫している。			居室にはエアコンや洗面台、ベッド、整理箆笥、カーテンが備えつけられていて、利用者が自ら衣類を管理したり、鏡で身なりを整えたりできるほか、家族等の協力のもと、自宅で使い慣れた目覚まし時計や化粧品、家族写真、毛布や枕等の寝具類を持ち込み、居心地よく過ごせる空間作りをしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の身体機能の状態に合わせた危険の防止や自分の力を生かして動けることを支え、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。			/

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名小規模多機能型居宅介護 たまり

作成日 平成27年6月8日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護支援専門委員が作成した居宅介護計画書に基づき、利用者が事業所を利用中に提供するサービスの内容を網羅した個別の援助計画書が作成されていない	介護支援専門委員が作成した居宅介護計画書に基づき利用者の当事業所利用中の提供するサービス内容を個別援助計画書として作成する	居宅介護計画書に基づいた個別の援助計画書を作成していくに当たり、担当者会議等を開き検討し作成していく	6ヶ月
2	33	年間研修計画書を作成していないので、勉強会の開催の管理や記録が残っていない	年間研修計画書を作成し、勉強会やミーティング等の管理及び記録をしていく	年間研修計画書を作成し、きちんと毎日の勉強会等の記録を残し管理する	3ヶ月
3	35	全職員昼夜を問わず避難できる方法を身に付ける。訓練実施後は反省会を行い次回に向けての改善をしていない	避難訓練の実施において全職員が避難方法を身に付ける。反省会を開催し、次回へ向け改善を図る	年2回の避難訓練の実施夜間想定を実施。近隣住民への協力の依頼。反省会の開催し次回へ向け改善策等を検討していく	現在実施済
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。